



2014年2月5日

お客様向け資料

BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

2014年2月3日のブラジル株式市場の値下がりについて

市況概況：

2014年2月3日のボベスパ指数は、全構成銘柄が下落する全面安の展開となり、終値は前日（1月31日）比で3.1%安の46,147.52ポイントへ下落しました。

3日、米供給管理協会（ISM）が発表した1月の製造業総合景況指数は51.3となり、米製造業活動は新規受注の減速が響き、この8ヶ月で最も遅いペースでの拡大となりました。また、中国の製造業活動の目安となる中国国家統計局が発表した1月の製造業購買担当者指数（PMI）が半年ぶりの低水準となりました。その結果、過度の与信を抑制する中国政府の取り組みが成長減速につながると思惑のほか、世界の経済成長が鈍化しつつある兆しに加え、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融緩和縮小で投資家が新興国市場から資金を引き上げるとの懸念が強まり欧米株式市場を始め新興国株式もふくめ全面安の展開となりました。

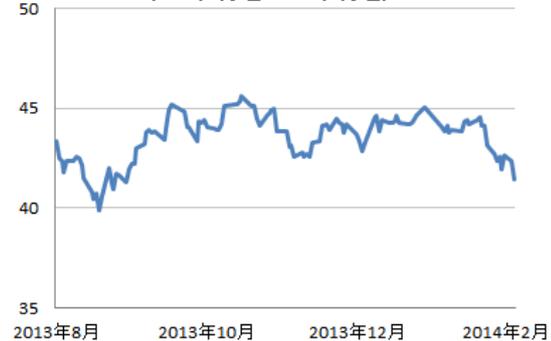
ブラジル株式市場は、最大の貿易相手国である中国の成長鈍化懸念から、鉄鉱石生産会社や鉄鋼メーカー、素材、エネルギーといった景気敏感セクターが全体の下落を牽引する形となりました。さらに、金融当局がインフレ抑制に向けて利上げを継続するとの観測から、住宅建設関連や不動産といったセクターも売られました。しかし、翌日4日のボベスパ指数終値は前日比1.8%高で引けております。

為替市場では、リアルが対円、対ドルで下落しました。株式や商品といったリスク資産が世界的に下落し、ブラジルでも株価が軟調となったことで、投資家のリスク回避姿勢が強まったことで比較的安とされる円が上昇しました。新興国通貨が売られる中、ブラジルのエコノミストがリアル相場の見通しを引き下げたことや同国の貿易赤字が過去最大に膨らんだこともリアル安に影響した模様です。その結果、リアルは対円で42円台から41円台へと下落しました。リアル/円の水準は年初来で最安値圏となりました。

＜ブラジルボベスパ指数の推移＞
（2013年8月5日～2014年2月4日）



＜為替の推移＞
（2013年8月5日～2014年2月4日）



本資料は、BNPパリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解等を提供することを目的として、上記の時点で作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。